

キリスト教保育における保育者の言葉の特徴 —園内の役割と宗教の有無に着目して—

Characteristics of Teachers' Words at Christian Nurseries
: Focusing on Thier Roles in Nursery and the Existence or Absence of Religion

鈴木 幸子* 江村 綾野**

(*静岡英和学院大学 **川村学園女子大学)

1. 問題と目的

キリスト教保育の現状と意義

キリスト教保育は、「子ども一人ひとりが 神によっていのちを与えられた者として、イエス・キリストを通して示される神の愛と恵みのもとで育てられ、今の時を喜びと感謝を持って生き、そのことによって生涯にわたる生き方の基礎を培い、共に生きる社会と世界をつくる自律的な人間として育つために、保育者がイエス・キリストとの交わりに支えられて共に行う意図的、継続的、反省的な働きである。」⁽¹⁾と定義される。キリスト教保育は、キリスト教に基づく理念や目標に支えられた保育であり、キリスト教主義の園において実践されてきた。キリスト教主義の園は、キリスト教年鑑によると、全国の幼稚園の約10%⁽²⁾がキリスト教主義の幼稚園であり、保育所も年々増加⁽³⁾してきた。2006年10月「就学前の子どもに関する教育，保育等の総合的な提供の推進に関する法律」が施行され認定こども園制度が開始されて以降も増加がみられている。2013年以降、キリスト教主義園の数把握は、幼稚園・保育園から認定こども園への移行の促進等急速な変化の中で行い難しくなっているようだ⁽⁴⁾が、それ以降の数年でキリスト教主義園が減少することは、特に今日の保育の量と質を求められる時代において考え難い。日本の幼児教育・保育の歴史的にも、日本社会の現代的課題にも大きな貢献をしていると言えよう。

キリスト教保育における保育者の信仰と課題

この20年間に、キリスト教保育の保育者はキリスト教信者の割合が大きく減少している。1981年の調査では47.8%であったのに対し、2004年の調査では27.2%である⁽⁵⁾。キリスト教主義の園の実践は多くの未信者の保育者によって担われている、という事実直面している⁽⁶⁾のである。キリスト教保育は、かつてキリスト教信者によって担われてきた。しかし、今日では、キリスト教保育を大切にしたいと考える信者（以下クリスチャンとする）と未信者（以下ノンクリスチャンとする）との協働によって担われている⁽⁷⁾。多くのノンクリスチャン保育者とクリスチャン保育者が共にキリスト教保育を理解し、協働しながら実践することは、今日のキリスト教保育の課題であろう。

クリスチャン保育者とノンクリスチャン保育者との協働については、ノンクリスチャン保育者の中には、教会には行かないがキリスト教に関心があるキリスト教シンパが存在し⁽⁸⁾、キリスト教シンパに対しては教会からのアプローチや園内におけるキリスト教的空間づくりが求められること⁽⁹⁾等、ノンクリスチャン保育者へのキリスト教保育の園や教会からのアプローチについての課題が挙げられている。一方、キリスト教主義園の立場からはキリスト教の信仰や知識に対する理解なくしては、キリスト教保育は成り立たないという考え方がある⁽¹⁰⁾。保育者は、神と保育者と子どもや保護者との関係等を通して神に愛されていることを自覚し⁽¹¹⁾、イエス・キリストが示された神の愛に気づき、その愛の中で生かされていると感じることに乏しさがある⁽¹²⁾という心理的側面への指摘である。

キリスト教保育における保育者の園内の役割と信仰の有無

キリスト教保育の保育者の心理的側面について江村・鈴木⁽¹³⁾は、キリスト教保育を実践する集団での日々の経験を通して、保育者個人がキリスト教について信じたり、感じたりすることを宗教意識とし、保育者の宗教意識と園内の役割との関連に着目した。園内の役割は、保育者の発達において園での立場によって生じる変化・危機あることが知られている⁽¹⁴⁾。キリスト教保育においては、園長は対外的責任者であると同時に、園内では礼拝の話を担当することが多い。また、主任保育者（以下では主任とする）は園長のサポート役であると共にキリスト教行事を含む保育実践と保育者のリーダーである。担任保育者は日々直接子どもとかわり、祈りや讃美歌をリードするクラス内の責任者である。このように、保育者は、子どもや保護者への直接処遇の知識や技術だけでなく、徐々に管理職や責任者としての重圧など園での役割が変化していく。キリスト教保育の保育者の、役割が変わることで宗教意識に影響する可能性を検討したのである。信頼性と妥当性が確認されている宗教意識尺度⁽¹⁵⁾を用いて、キリスト教保育者の宗教意識と園内の役割の関連を検討した結果、まず、宗教意識は神の被包感と神と同僚への信頼感により構成されていた。また、園長・副園長、クリスチャン主任、ノンクリスチャン主任、クリスチャン保育士、ノンクリスチャン保育士の5群に分けて、宗教意識を比較した多重比較の結果、5群間の宗教意識には違いがあることが示された。さらに、注目すべきは、ノンクリスチャン保育士が多勢を占める現状において、ノンクリスチャン主任の宗教意識はノンクリスチャン保育士の宗教意識よりも高い傾向にあったことである。ノンクリスチャン保育士は主任になることで宗教意識が高くなる変化が生じている可能性がある。主任の役割は園内のキーパーソンとしての働きがあると指摘されてきたが、キリスト教保育の宗教意識から見ても、ノンクリスチャン主任がノンクリスチャンとクリスチャン保育者の協働において重要な役割を担っていることが示唆されている。

キリスト教保育における保育者の言葉の特徴と園内の役割

保育者の園内の役割が、キリスト教保育の保育者としての発達と協働に影響する可能性に着目して、江村・鈴木⁽¹⁶⁾は保育者らの言葉を検討している。保育者と子どもたちは日々、礼拝、祈り、

讃美歌等で、言葉を通して、神の愛を感じたり、表現したりする。保育者のもつ言葉は子どもの成長にとって大きな意味をもつ。ことさらキリスト教保育では信仰に根差した言葉の意義は大きいと思われるからである。分析は、キリスト教保育者からの「キリスト教保育の場面であなただちは子どもたちに神様やイエス様のことをどのように伝えたいと思いますか」という質問に対する自由記述を対象に、テキストマイニングを用いて行った。結果、まず、神様やイエス様について保育者が子どもたちに伝えたいこととして「見守る」「存在」「神様」「伝える」「愛す」などの語が抽出された。これらの言葉は、キリスト教保育の実践において保育者が使う頻度の高い言葉であり、キリスト教保育における特徴的な言葉であることがうかがえる。また、園での役割による抽出語の頻度やつながりの違いがあった。抽出された語は、共通するものもあるが、園での役割によって違いがあった。さらに、主任に注目した時、主任は園長や副園長よりも多くの語とつながっていた。主任は担任と園長・副園長をつなぐ立場として多様な言葉を持ち、それを駆使した働きをしている可能性がある。保育者集団における役割を認識した言葉があることは、保育者としての発達の一部として捉えることができる。江村・鈴木⁽¹⁷⁾による宗教意識と園内の役割との関連では、特にノンクリスチャン主任の宗教意識は主任役割を担うことで変化した可能性を示唆し、その働きが園の保育を支えていると考えている。キリスト教保育の課題であるクリスチャン保育者とノンクリスチャンの保育者の発達と協働を考えるには、園内の役割と保育者の宗教の有無を含めて検討することが求められるだろう。

以上のことから、キリスト教保育における保育者の言葉の特徴を、園内の役割と宗教の有無に着目して検討することを目的とする。その際、キリスト教保育の保育者の言葉を限定的でなく、全体的傾向を捉える必要があると考える。そのため、江村・鈴木⁽¹⁸⁾では調査の自由記述1項目のみを分析対象としたが、本研究では自由記述4項目全てを分析対象とする。

II. 方法

調査対象

本研究では、公益財団法人日本YMCA同盟⁽¹⁹⁾と社会福祉法人賛育会⁽²⁰⁾の協力を得て調査を行った。具体的には、幼稚園7園、保育園36園、認定こども園10園の53園に、1園につき10人分の合計530枚の調査用紙を送付した。近年、複数の幼稚園・保育所・こども園等を運営する法人においては、カリキュラムや指導計画だけでなく保育方法などもマニュアルによって統一している場合がある。しかし、今回の調査協力を依頼した2つの法人の保育施設は独自性が高く、そこで働く保育者の意識には多様性があると考えた。有効回収率は40%（214名）であった。

調査時期

2017年7月から8月に実施した。

調査内容

調査票は、属性、就学前教育で子どもの学ぶこと⁽²¹⁾などの5項目および、自由記述4項目（「神様をどのように伝えたいか」「子どもたちは神様をどのように感じているか」「一般的な保育の実践との違い」「キリスト教保育とはどのようなものだと思うか」）で構成された。本研究では保育者のキリスト教保育に関する意識について全体的傾向を捉えたいと考え、自由記述について項目ごとではなく4項目をまとめて分析した。

分析方法

テキスト型（文章型）データを分析するためにKH Coder⁽²²⁾を用いた。KH Coderは、日本語テキスト型データの分析に適したフリーソフトである。自由記述の分析において恣意的となり易い手作業を排した多変量解析によって全体的な傾向を探ることができると考えた。

倫理的配慮

今回の調査目的や主旨のほか、データの取り扱いや調査結果のフィードバックについて書面にて説明し、回答をもって同意したとみなした。尚、本研究は、静岡英和学院大学倫理審査委員会の承認を得ている。

III. 結果と考察

属性

幼稚園教諭15名（7.0%）、保育士124名（57.9%）、保育教諭74名（34.6%）の合計214名、内訳は、園長14名（6.6%）、副園長5名（2.3%）、主任28名（13.1%）、担任150名（70.4%）、その他（非常勤など）17名（8.0%）であった。また、クリスチャンは26名、ノンクリスチャンは178名であり、クリスチャンは全体の12.1%であった。園での役割別人数とクリスチャン・ノンクリスチャンの内訳を表1に示した。

表1 対象者の役割と宗教の有無

園での役割	人数	クリスチャン	ノンクリスチャン
園長	14名 (6.6%)	4名	10名
副園長	5名 (2.3%)	1名	4名
主任	28名 (13.1%)	5名	23名
担任	150名 (70.4%)	12名	138名
その他	17名 (8.0%)	4名	13名
合計	214名	26名 (全体の12.1%)	178名 (全体の83.2%)

本研究の結果では、クリスチャンである比率は全体の12.1%であった。キリスト教保育連盟による調査⁽²³⁾ではキリスト教保育を行う保育施設におけるクリスチャン率は約27.2%と示されており、本研究の対象者のクリスチャンである割合は低かった。

本調査の対象である2つの法人はいずれもキリスト教を基盤とする法人であり、保育事業の開始時期はいずれも2000年以降であった。キリスト教保育の担い手はノンクリスチャンであるという実態がうかがえる。

園での役割と宗教の有無による語の使用傾向の特徴

まず、保育者214名の自由記述全4項目を対象として前処理を実行した。文章の単純集計の結果、906の文が確認された。また総抽出語（分析対象データに含まれている全ての語）の延べ数は14,459であった。

園での役割別に語の使用傾向を探るためにKH Coderの特徴語の一覧を作成した。園での役割（園長、副園長、主任、担任、その他）と信仰の有無を外部変数として設定した上で、それぞれの変数に特徴的な語としてJaccardの類似性測度（0から1までの値をとり、関連が強いほど1に近づく）が大きい順に上位10語をリストアップした（表2）。

表2 園での役割と宗教の有無による特徴語と類似性測度

園長		副園長		主任							
クリスチャン (n=4)	ノンクリスチャン (n=10)	クリスチャン (n=1)	ノンクリスチャン (n=4)	クリスチャン (n=5)	ノンクリスチャン (n=23)						
人間	.130	心	.056	一節	.250	考え	.125	多い	.130	見える	.144
キリスト	.118	違い	.051	人生	.250	主観	.125	生き方	.095	目	.136
救う	.118	愛す	.043	羅針盤	.250	人格	.125	祈る	.088	保育	.100
大人	.100	信じる	.042	協力	.167	考え方	.118	信仰	.087	神様	.087
場面	.083	生活	.041	人間	.077	共通	.111	愛する	.080	存在	.083
あり方	.063	知る	.041	命	.046	根本	.111	人	.079	見る	.076
一生	.063	見える	.039	育てる	.033	明確	.111	空	.063	子ども	.076
営み	.063	保育	.036	聖書	.033	教育	.100	愛す	.056	伝える	.070
規範	.063	愛	.036	心	.029	幼児	.100	愛	.054	感じる	.069
限界	.063	アーメン	.036	伝える	.024	尊い	.091	思う	.053	守る	.068
担任		その他									
クリスチャン (n=12)	ノンクリスチャン (n=138)	クリスチャン (n=4)	ノンクリスチャン (n=13)								
感じる	.078	存在	.242	天	.125	大切	.096				
一人ひとり	.074	見守る	.207	すべて	.111	一人ひとり	.081				
自分	.074	思う	.121	生かす	.111	気持ち	.074				
守る	.069	自分	.119	園	.105	子ども	.069				
優しい	.068	伝える	.105	実践	.087	受け止める	.061				
身近	.065	お祈り	.078	側	.087	感じる	.059				
愛す	.064	見る	.075	温かい	.074	神様	.057				
聖書	.064	イエス	.073	愛	.073	姿	.057				
自身	.061	礼拝	.069	ミッション	.063	人	.053				
存在	.059	身近	.037	愛情	.063	安心	.053				

Jaccardの類似性測度値が最大であった語はクリスチャン副園長の「一節」「人生」「羅針盤」(.250)であった。「聖書の一節を人生の羅針盤にする」という言葉で用いられていたが、クリスチャ

また、ノンクリスチャン担任とクリスチャン園長・副園長およびノンクリスチャン園長・副園長のつながりはなかった。データ数の偏りが影響しているものと考えられる。

対応分析

さらに使用傾向や内容の違いについて検討するため、園での役割と宗教の有無を外部変数として対応分析を行った（図2）。

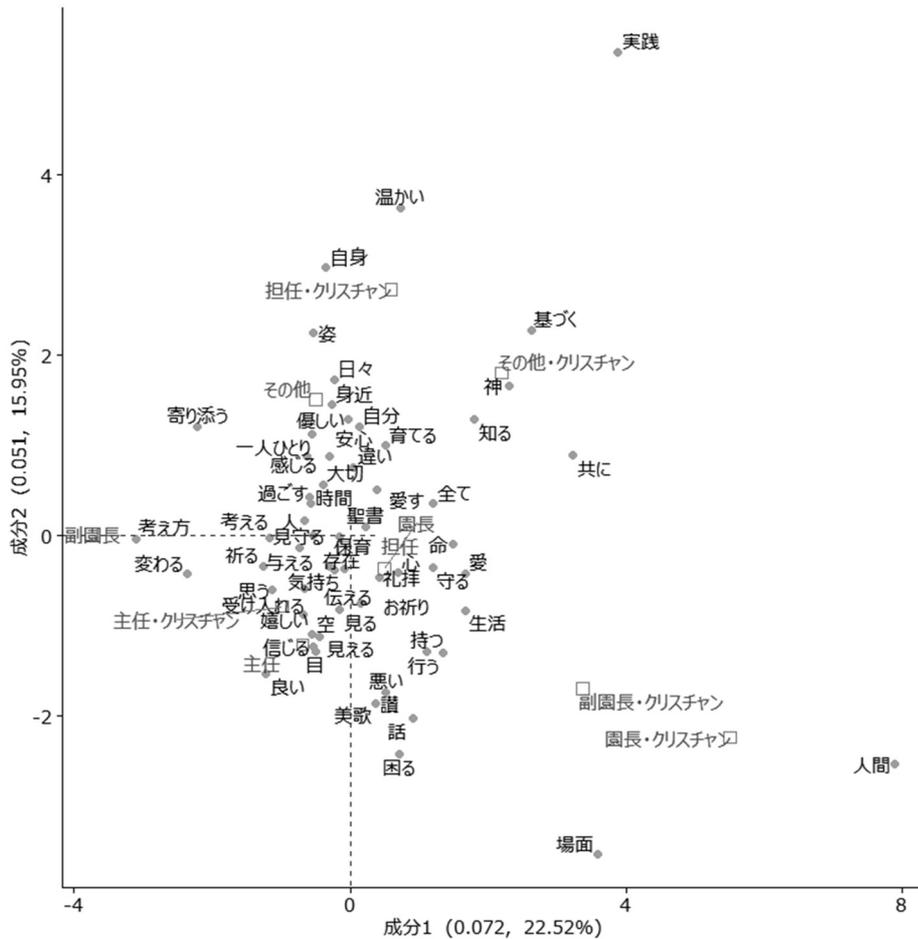


図2 園での役割と宗教の有無による対応分析の結果

対応分析では点線の交差する座標を原点とし、原点から離れた場所にある語ほどその外部変数の特徴を表すとされる。原点近くにはノンクリスチャン担任、その右下にはノンクリスチャン園長、原点の左下にクリスチャン主任、その下にノンクリスチャン主任が位置していた。クリスチャン園長・副園長・担任等の位置は原点から離れていた。つまりクリスチャン主任とノンクリスチャン園長・主任・担任から抽出された語（言葉）の特徴には共通性があるのかもしれない。実践のリーダーであるクリスチャン主任が保育者集団の要となって、ノンクリスチャン担任に近い言葉を多く用いながら、キリスト教保育の実践と理解をサポートしているのではないだろうか。

IV. 総合考察

本研究の目的は、キリスト教保育における保育者の言葉の特徴を、園での役割と宗教の有無に着目して検討することであった。まず、自由記述全4項目をKH Coderによって分析した。その結果、Jaccardの類似性測度値は園での役割と宗教の有無によって多様に示された。共起ネットワーク分析ではノンクリスチャン担任とノンクリスチャン主任の語と語のつながりの出現頻度が高く、クリスチャン主任とクリスチャン担任の語がノンクリスチャン担任やノンクリスチャン主任とつながっていた。クリスチャン同士のつながりは低かった。さらに使用傾向や内容の違いについて検討するため、園での役割と信仰の有無を外部変数として対応分析を行った結果、ノンクリスチャン担任とクリスチャン主任から抽出された言葉の特徴には共通性があることがうかがえた。

キリスト教保育における言葉の特徴と宗教の有無

江村・鈴木⁽²⁴⁾では、自由記述1項目に対する言葉は、「見守る」「存在」「神様」「伝える」「愛す」等があった。本研究では4項目の自由記述を対象にしたが、ノンクリスチャン担任とノンクリスチャン主任のつながりにおいて「神様」「存在」という同様の言葉の出現頻度が高く示された。これは、キリスト教保育の保育者が使用する頻度の高い言葉であることが分かる。また、ノンクリスチャン担任とノンクリスチャン主任の言葉（語）と言葉（語）のつながりの出現頻度が高く、クリスチャン主任とクリスチャン担任の言葉（語）がノンクリスチャン担任やノンクリスチャン主任とつながっていた。クリスチャン同士のつながりは低かった。クリスチャンは、教会に通い御言葉を聞き、神様に従って生きようという方向を持っているだろうと考えられるため、クリスチャン同士の言葉はより結びついて良いように思われた。これは、調査対象クリスチャンの比率が全体の12.1%であり、本研究の対象者のクリスチャンである割合が低かったためデータの偏りと考えられる。

クリスチャン主任とノンクリスチャン担任との言葉の共通性

保育において主任役割は現場のキーパーソンである。対応分析において、ノンクリスチャン担任とクリスチャン主任から抽出された言葉（語）の特徴には共通性があることがうかがえた。キリスト教保育は日常的に宗教行為を伴う。宗教的行為に不慣れたノンクリスチャン担任にとっては迷いや難解さ、悩みも出てくるだろう。保育者集団のリーダーであるクリスチャン主任は、そのようなノンクリスチャン担任に寄り添い、共に考え、助言や励ましを行う際にも、ノンクリスチャン担任に近い言葉を多く用いることでサポートしているのではないだろうか。

スイスの児童文学者でありキリスト教教育を多く綴ったレギーネ・シントラー⁽²⁵⁾をふまえて深谷⁽²⁶⁾は「一つの宗教に根を下ろすこと」を考察している。その中で、「一つの宗教に根を下ろす」ことを、キリスト教という宗教が土台となり、その上に建てられた大きな家をイメージしていると述べている。家は精神的態度や心持ちのことである。続けて、深谷⁽²⁷⁾は、この家にはキリスト教の異なる教派だけではなく、異なる宗教の信者や無神論者さえも入ることが可能である。そして、

改宗を目的とせず、盛大な祝宴に招きたい、とまで考えている。あくまで、自分の立場が他の文化・宗教を信じる他者とどのように関わるか、その心の持ち方が、一つの宗教に根付くことによって安定し安心感を持って他者を受け入れることができると解説している。これは、子どもの育ちを大人が積極的に支えるために述べられているが、キリスト教保育においては、保育経験を積んだクリスチャン主任が、キリスト教に根付くことによって安定し、安心感をもってノンクリスチャン担任を受け入れ、協働してキリスト教保育を実践しようとしている、と考えられるのではないだろうか。

今後の課題

最後に今後の課題を挙げる。キリスト教保育における保育者の発達と協働について検討するためには、クリスチャンとノンクリスチャンの比率を近づけた量的調査や、キリスト教保育者として役割変容を踏まえながらの発達過程を質的調査する必要があるだろう。

〈付記〉

本研究にご協力いただきました保育者のみなさま、公益財団法人日本YMCA同盟および社会福祉法人賛育会のみなさまに心より御礼申し上げます。

〈註〉

① キリスト教保育研究委員会『新キリスト教保育指針』社団法人キリスト教保育連盟、2010年、23頁。

② 幼稚園数については、2012年の調査におけるキリスト教主義の幼稚園数1,382園と、全国幼稚園数 13,170園の比較である。キリスト教の幼稚園数は、キリスト教年鑑編集委員会編『キリスト教年鑑2013』キリスト教新聞社、2013年、277-321頁。全国幼稚園数は、文部科学省『学校基本調査—平成24年度（確定値）結果の概要』

http://www.mext.go.jp/component/b_menu/other/_icsFiles/afieldfile/2012/12/21/1329238_2_1.pdf (2014年7月16日取得)

キリスト教主義の保育所数増加については、キリスト教年鑑2009年版の479園と2013年版の536園の差である。キリスト教年鑑編集委員会編『キリスト教年鑑2013』キリスト教新聞社、2013年、322-339頁。キリスト教年鑑編集委員会編『キリスト教年鑑2009』キリスト教新聞社、2009年、822-843頁。

④ キリスト教主義の幼稚園・保育園数については、キリスト教年鑑2020～2021版の学園の項目に幼稚園・保育園部があるが、2013年以前と比較できるデータは掲載されなくなっている。キリスト教年鑑編集委員会編『キリスト教年鑑2020～2021』キリスト教新聞社、2021年

⑤ キリスト教保育研究委員会『キリスト教保育アンケート報告—現状と課題—』社団法人キリスト教保育連盟、2006年、11頁。

⑥ 深谷潤「ノンクリスチャン保育者を支える園の在り方と課題」、上垣彰ら編『西南学院大学人間

科学論集』第5巻、第2号、西南学院大学学術研究所、2010年、96頁。

⁽⁷⁾ キリスト教保育研究委員会『新キリスト教保育指針』社団法人キリスト教保育連盟、2010年、20頁。

⁽⁸⁾ キリスト教保育研究委員会 前掲書、2006年、113頁。

⁽⁹⁾ 深谷潤「ノンクリスチャンによるキリスト教保育の課題—「キリスト教シンパ」とキリスト教的空間—」、上垣彰ら編『西南学院大学人間科学論集』第7巻、第1号、西南学院大学学術研究所、2011年、136-162頁。

⁽¹⁰⁾ 東義也「キリスト教保育の現場における保育者の信仰と理解について」、渡辺治雄編『尚絅学院大学紀要』、第54集、尚絅学院大学、2007年、136頁。

⁽¹¹⁾ キリスト教保育研究委員会 前掲書、2010年、21頁。

⁽¹²⁾ 赤木敏之「キリスト教教育のperspective—キリスト教保育の現状と課題—」、日本キリスト教教育学会『キリスト教教育論集』第20号、キリスト教教育学会、2012年、113頁。

⁽¹³⁾ 江村綾野・鈴木幸子「キリスト教主義の保育園における保育士の役割と宗教意識の関連」、日本キリスト教教育学会『キリスト教教育論集』第23号キリスト教教育学会、2015年、55-65頁。

⁽¹⁴⁾ 秋田喜代美「保育者のライフステージと危機」、『発達83』ミネルヴァ書房、2000年、48頁。

⁽¹⁵⁾ 松島公望『宗教性の発達心理学』ナカニシヤ出版、2011年、55-81頁。

⁽¹⁶⁾ 江村綾野・鈴木幸子「保育者は子どもたちに神様をどのように伝えているのか—質問紙調査の分析による一考察—」日本キリスト教教育学会『ニューズレター』No.85 日本キリスト教教育学会、2022年、3頁。(オンライン開催のため、原稿は学会への提出及び発表資料に使用した。)

⁽¹⁷⁾ 江村綾野・鈴木幸子 前掲書、2015年、55-56頁。

⁽¹⁸⁾ 江村綾野・鈴木幸子 前掲書、2022年、3頁。

⁽¹⁹⁾ 公益財団法人日本YMCA同盟 (調査時 総主事・神崎清一氏)

⁽²⁰⁾ 社会福祉法人賛育会 (調査時 さんいく保育園有明園長・山下誠氏)

⁽²¹⁾ 高濱裕子・渡辺利子「家庭から就学前施設への環境移行：幼稚園入園をひかえた子どもをもつ親の関心」、『お茶の水女子大学人文科学研究』、お茶の水女子大学、2010年、95-106頁。

⁽²²⁾ 樋口耕一『社会調査のための計量テキスト分析：内容分析の継承と発展を目指して』ナカニシヤ出版、2014年。

⁽²³⁾ 日本キリスト教保育所同盟『2014年度事業〈予定〉のご案内』

<http://www.kihodou.jp/kirisutokyouhoikushodoumei/yotei.html> (2014年7月10日取得)

⁽²⁴⁾ 江村綾野・鈴木幸子 前掲書、2022年、3頁。

⁽²⁵⁾ レギーネ・シントラー『希望の教育へ』(深谷潤訳) キリスト教教団出版局、2016年。

⁽²⁶⁾ 深谷潤「レギーネ・シントラーの「希望の教育へ」に関する一考察—「一つの宗教に根を下ろすこと」の課題—」、『キリスト教教育論集』日本キリスト教教育学会、2021年、41-52頁

⁽²⁷⁾ 同書、43頁。